

# FES (Food Education Supporter)

## ～食育応援隊～

代表者 農学部地域総合農学科 3年 伊藤友紀

### 連携先

茨城かすみ農業協同組合 青田 洋一

### 顧問教員

安江 健 (農学部・教授)

### 参加者

伊藤 友紀	農学部地域総合農学科 3年
鈴木 日菜	農学部地域総合農学科 3年
飯田 朋美	農学部地域総合農学科 3年
伊藤 舞	農学部地域総合農学科 3年
鈴木 亜実	農学部地域総合農学科 3年
高橋 理子	農学部地域総合農学科 3年
宇賀神 温	農学部食生命科学科 3年
黒澤 まりな	農学部資源生物科学科 4年
渡邊 明花	農学部資源生物科学科 4年
草谷 奈津子	農学部資源生物科学科 4年
酒井 円香	農学部資源生物科学科 4年
宮田 海	農学部資源生物科学科 4年
成嶋 緑	農学部地域総合農学科 2年
堀池 志帆	農学部地域総合農学科 2年
石倉 未悠	農学部地域総合農学科 2年
杉原 ほのか	農学部地域総合農学科 2年
森山 光	農学部地域総合農学科 2年
鬼澤 彩乃	農学部地域総合農学科 2年
小林 由莉	農学部地域総合農学科 2年
松浦 拓哉	農学部地域総合農学科 2年
木村 玲司	農学部地域総合農学科 2年
永尾 美紗登	農学部食生命科学科 2年
須々木 陽音	農学部地域総合農学科 2年

### プロジェクトの概要

#### ●背景

阿見町では、町教育委員会と JA 茨城かすみ (以下,農協) により、町内の小学校に対し食育事業が行われていた。この活動に 2014 年度～2016 年度までは有志の学生が自費で支援を継続し、食育事業を継続できたという背景がある。そして、2017 年度からは有志の学生が増え、更なる参画ができると考え、本プロジェクトに応募し、採択された。更に、2019 年度からは町教育委員会と農協での食育事業がなくなった。現在、農協の方から食育活動を引き継ぎ、継続していくことはもちろん、自分たちで直接積極的に小学生との交流活動を行うことで、食育活動の継続と発展を目指している。

#### ●目的

阿見町の 7 校の小学校で、本プロジェクト (以下,FES) が直接的に食育や授業のサポート等で小学生の活動を支援する。将来を担う子供たちの食、茨城大学及び地元への関心を高めることで、阿見町の発展に貢献することを目的として活動している。

#### ●活動内容

小学校での主な活動としては、

- ①授業サポート
  - ②農業についての授業・農作業
  - ③食に関する広報の作成・配布
- を行っている。その他行事も随時参加している。

#### ●食育への思い

私たちの活動は実際に小学校の中に入っ  
ての活動で、地元や農業についての楽しさ

や大切さを知るきっかけづくりができることを強みとしている。

農村の高齢化・過疎化が進み、食料の安全が危ぶまれる中で、一人でも多くの児童に阿見町や農業、食への魅力を感じてもらいたいという思いで活動している。「小学生は地元の宝であり、FESの活動が将来の地域の活性化に繋がる」ということで、農協の方々や先生方も熱意をもって協力、支援をしてくださっている。

### プロジェクトの成果報告

#### ●今年度の活動及び成果

##### ①授業サポートについて

丸つけや机間サポートの活動(写真1)により、子どもたちや先生方と話す機会が増え、主体的に活動できるような良い関係を築くことができている。これにより、昨年度の課題であった学生の授業の合間での活動のしづらさが解消され、より小学校に密着した活動ができた。



写真1 机間サポートの様子

##### ②農業についての授業・農作業

農業だけでなく、社会の授業でも活動させていただき、「茨城大学農学部でどんなことを学んでいるのか」というテーマで授業をした。後日いただいた手紙には、多くの児

童からの「知らなかったことを学ぶことができた」、「興味を持ったので自分で調べてみたい」という感想が記載されていた。課題としては、将来の職業として農業考えている小学生がほとんどいないという現状があったので、今後の活動内で食や農業について考えるきっかけを更に増やしていく必要があると考えている。

農作業については主に落花生とサツマイモの収穫を行った。説明している間は集中して聞いている子どもたちだが、農作業ははしゃいで楽しそうに行っていた。ある小学校ではサツマイモパーティーを開いてくださり、収穫したサツマイモで作ったスイートポテトをご馳走になった。つまり、児童が収穫から食べるところまでを楽しんで行うことができていた。これは、食育活動として理想的な活動であり、良さを広めていきたい。



写真2 落花生収穫の様子

##### ③食に関する広報の作成・配布

毎月「もぐもぐ通信」という題で食や農業に関する広報誌を作成し、各クラスに掲示してもらっている。農作業の体験等の一時的なものではなく、継続して興味を持ってもらえるような情報発信をすること、家庭

での話題として取り上げてもらうことを目的として行った。作成時は、興味を引くデザインや分かりやすい言葉遣いなどにより、様々な食べ物について低学年でもわかりやすく伝わるように工夫した。



図1 もぐもぐ通信 10月号

●今後の展望

今年度の活動は学生中心となって行わなければならない状況だったが、逆境を力に変えて主体的な活動を行うことができた。来年度への引継ぎをしっかりと行い、継続して取り組めるようにしたい。また、来年度は一部の小学校だけであった活動の幅を広げ、より地元に着したプロジェクトになることを目標とする。更なるきっかけ作りとしては、もぐもぐ通信の個人への配布等も検討し、主体的な活動で貢献できることを増やしていく。

食育活動の継続はもちろん向上のためには、周囲の方々の協力がなくてはならない。先生方や阿見町に働きかけることでプロジェクト活動の幅を広げていきたいと思う。